



自然をいかした地域づくりの展望 赤谷プロジェクト 次の 10 年



主催：赤谷プロジェクト地域協議会・林野庁関東森林管理局・日本自然保護協会
共催：東京農工大学大学院農学研究院自然環境保全学専攻
協力：みなかみ町

<プログラム>

開催挨拶 13:00 岸良昌（みなかみ町長）

第 1 部 赤谷プロジェクトの取り組みの紹介と問題提起 (30 分)

- 13:10-13:20 ①はじめに～みなかみ町のご紹介
林泉（赤谷プロジェクト地域協議会代表幹事）
- 13:20-13:30 ②赤谷プロジェクトの 10 年の取り組み
出島誠一（日本自然保護協会・赤谷プロジェクト総合事務局）
- 13:30-13:40 ③本日のテーマ～問題提起
横山隆一（日本自然保護協会常勤理事）

第 2 部 ④パネルディスカッション 1～「自然をいかした地域づくりの展望」 (100 分)

- 13:40-14:50 コーディネイト：海津ゆりえ（文教大学教授・日本エコツーリズム協会理事）
パネリスト：挾土利平（岐阜県高山市環境政策推進課長）
山崎亮（studio-L 代表）
沖修司（林野庁国有林野部長）
長池卓男（山梨県森林総合研究所）
- 14:50-15:15 フロアを含めた質疑
- 15:15-15:20 まとめ～赤谷プロジェクト次の 10 年への提案／海津ゆりえ

<休憩 15:20-15:30 10 分>

第 3 部 ⑤パネルディスカッション 2～「赤谷プロジェクト 次の 10 年」 (55 分)

- 15:30-16:20 コーディネイト：土屋俊幸（東京農工大学教授）
パネリスト：海津ゆりえ（文教大学教授・日本エコツーリズム協会理事）
河合進（赤谷プロジェクト地域協議会会長）
寺川仁（林野庁関東森林管理局計画保全部長）
横山隆一（日本自然保護協会常勤理事）
- 16:20-16:25 総括～赤谷プロジェクト次の 10 年／土屋俊幸

閉会挨拶 16:25 亀山章（赤谷プロジェクト自然環境モニタリング会議座長）

<趣旨>

赤谷プロジェクトは、「生物多様性の復元」と、今ある自然をよりよく保全しながら、損なわないように活用していく「持続的な地域づくり」の実現方法を見つけ出すことを目標として 10 年間取り組んできました。10 年が経過した現在、この二つの目標の間に有機的な繋がりを持たせるにはどうしたらよいかという課題に直面しています。

「生物多様性」の復元やそれを損なわないような活用は科学的な裏づけにより可能になることから、調査研究が中心の活動になります。一方「持続的な地域づくり」は、現代を生きる人たちの暮らしのニーズとの調和が求められ、実現に当たっては地域に住む人々と都市に暮らす人々のそれぞれの関心事に関係付けていくことが必要です。調査研究だけの活動に終わらせないためには、多様性を持つ自然環境から、どのような恩恵をどう取り出せるのかを、目に見える事柄にしていくことが求められます。

このことは、自然環境の保全や復元に取り組む多くのプロジェクトに共通する課題ではないでしょうか。「赤谷プロジェクト」10 年目のこの機会に、この課題の解決策を考え合いたいと思います。

<登壇者プロフィール>

海津ゆりえ（文教大学教授、日本エコツーリズム協会理事）



④「パネルディスカッション1」コーディネイター

⑤「パネルディスカッション2」パネリスト

地域計画コンサルタントを経て現職。日本のエコツーリズムの初期から実践に関わり、各地のエコツーリズム推進支援や研究を続けているほか、ガイド養成や環境省のエコツーリズムや国立公園関連委員を歴任。著書『日本エコツアー・ガイドブック』『エコツーリズムを学ぶ人のために』『東日本大震災からの復興まちづくり』他。

挾土利平（岐阜県高山市環境政策推進課長）



④「パネルディスカッション1」パネリスト

乗鞍山麓五色ヶ原の森でエコツーリズムを推進、活動開始から10年を迎える。第8回エコツーリズム大賞受賞（2013年3月）。自然環境保全を最優先に、地域の人材を雇用しインタープリターとして育成し、児童生徒を対象とした自然環境学習や多様な利用者ニーズに対応するため、地元企業のノウハウを活用するなど、官・民・学・地域が一体となった取組を進めている。日々のモニタリング活動や、エリア内における案内人の同伴義務化や、利用者数上限等の制度化、自然保護審議会の設置など先進的なシステムをもつエコツーリズムを展開している。

山崎亮（studio-L 代表、京都造形芸術大学教授、慶応義塾大学特別招聘教授）



④「パネルディスカッション1」パネリスト

建築・ランドスケープ設計事務所を経て、2005年にstudio-Lを設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決し、一人ひとりが豊かに生きるためのコミュニティデザインに携わる。まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、市民参加型のパークマネジメントなどに関するプロジェクトが多い。三重県伊賀市で穂積製材所の敷地を公共利用と人工林管理を促進するプロジェクトなども展開。「海士町総合振興計画」「マルヤガーデンズ」「studio-L 伊賀事務所」でグッドデザイン賞を受賞。著書に『コミュニティデザイン』『コミュニティデザインの時代』『ソーシャルデザイン・アトラス』『まちの幸福論』他。

沖修司（林野庁国有林野部長）



④「パネルディスカッション1」パネリスト

1979年に名古屋大学を卒業後、農林水産省に入省。林野庁九州森林管理局長を経て2011年から現職。岡山県出身。日本の国土面積の2割、森林面積の3割を占める国有林野の管理経営を統括。「公益重視の管理経営」や「森林・林業の再生への貢献」など国民の要請と期待に応える国有林野事業を推進。北は北海道から南は沖縄に至る国有林での経験を活かし、その手腕を発揮。趣味は、昆虫（オサムシ）、フライフィッシング。

長池卓男（山梨県森林総合研究所、赤谷プロジェクト植生管理WG委員）



④「パネルディスカッション1」パネリスト

森林生態や森林管理について研究。赤谷プロジェクトの植生管理WGの委員で、自然林復元の取り組みを主に担当。富士山での市民や企業との森づくり等にも研究者として参加。人工林や自然林における生物多様性や、その保全に関する研究論文や発表多数。『Interactive influences of distance from seed source and management practices on tree species composition in conifer plantations』他。

土屋俊幸（東京農工大学大学院教授、赤谷プロジェクト地域づくりWG委員）



⑤「パネルディスカッション2」コーディネーター

専門は林政学、自然資源管理論。赤谷プロジェクトで地域づくりWGの委員、自然環境モニタリング会議委員を担当し、歩道（旧三国街道）のレクリエーション利用や、地域住民の意向把握調査等を担当。多様な主体によるよりよい自然資源の管理の仕組み、人間にも自然にも優しいレクリエーションのあり方等を社会科学の手法で研究。2013年から林業経済学会会長。著書『生物多様性保全と環境政策』『イギリス国立公園の現状と未来』『山・里の恵みと山村振興』他。

河合進（赤谷プロジェクト地域協議会会長、観光庁観光カリスマ）



⑤「パネルディスカッション2」パネリスト

2012年より赤谷プロジェクト地域協議会の会長。旧新治村役場に勤務後、同村助役に就任。村役場では企画や観光の執務担当者として第一線で活躍し、地域づくり、観光振興に尽力した。農山村と観光を連携した村づくりの発想を打ち出し、「たくみの里」事業を推進。昔から伝わる手工芸文化の体験等を通じて観光客と農村の交流を進めることに成功。国土交通省の「観光カリスマ」に選定された。

寺川仁（林野庁関東森林管理局計画保全部長）



⑤「パネルディスカッション2」パネリスト

1986年に京都大学（修士課程）を卒業後、農林水産省に入省。林野庁森林保護対策室長を経て2013年7月から現職。広島県北東部出身。福島県、新潟県から静岡県に及ぶ1都10県にまたがる118万haの国有林を管理する関東森林管理局の森林計画、保全部管理、治山事業などの担当部長であり、局における赤谷プロジェクト担当の責任者。これまで、北海道十勝の国有林や九州の県庁などに勤務するとともに、文部科学省科学技術政策研究所において科学技術とNPOの関係についての調査研究に携わった経験もある。趣味は溪流釣り。

横山隆一（日本自然保護協会常勤理事）



③「本日のテーマ～問題提起」登壇者

⑤「パネルディスカッション2」パネリスト

日本自然保護協会の赤谷プロジェクト担当理事。旧新治村でのダム・スキー場の自然保護活動と、その後の赤谷プロジェクト発足で中心的な役割を担う。「NACS-J 自然観察指導員」等の環境教育、サンゴ礁生態系保全、大型猛禽類保全、国立公園、保護林、環境アセスメント等の業務に従事。林野庁林政審議会委員、環境省エコツアー推進方策検討会委員等を務める。著書『自然観察ハンドブック』『昆虫ウォッチング』『自然の見方が変わる本』他

林泉（赤谷プロジェクト地域協議会代表幹事、地域づくりWG座長、みなかみ町観光協会理事）



①「はじめに～みなかみ町の紹介」登壇者

2003年の赤谷プロジェクト発足当初から、代表幹事として赤谷プロジェクト地域協議会を牽引し、地域づくりWG座長も担当。赤谷の森の麓で川古温泉浜屋旅館を営み、地元観光協会でも理事として中心的な役割を担う。朝鮮古代史が専門で、地元の歴史にも詳しく、歴史関係の町内の勉強会等で講師もしている。

出島誠一（日本自然保護協会、赤谷プロジェクト総合事務局）



②「赤谷プロジェクト10年の取り組み」登壇者

日本自然保護協会の赤谷プロジェクト担当職員。赤谷プロジェクト発足初期はボランティアのサポーターとしてプロジェクトに参加し、2006年から職員として担当。2010年より赤谷プロジェクト総合事務局としてプロジェクトの全体運営を担当。その他、猛禽類モニタリングWG、地域づくりWGの事務局業務や、(株)ニコン、(株)資生堂、(株)千趣会、よしだコマース(株)等の支援企業との連携も担当。

<赤谷プロジェクトからのお知らせ>

赤谷プロジェクト・サポーターを募集しています！

赤谷プロジェクトの取り組みにご協力頂ける方を募集しています。毎月第一土日は定期的な活動日「赤谷の日」として、赤谷の森の保全活動やモニタリング活動をみんなで行っていきます。サポーターに登録して頂ければメールマガジンで赤谷の日など、赤谷プロジェクトの活動についてご案内します。ぜひお気軽にご登録下さい！

⇒https://www.nacsj.or.jp/akaya/sup_index.html 赤谷 サポーターで検索！

みなかみ町『赤谷の森』にお越し下さい！

みなかみ町「赤谷の森」とその麓には、古くから旅人や歌人が訪れた “旧三国街道” と “猿ヶ京三国温泉郷（猿ヶ京温泉・法師温泉・川古温泉・湯宿温泉）” があります。旧三国街道・三国峠周辺の自然散策と、麓にある温泉宿は、森をゆっくり楽しみたい方におススメの場所です。詳細はハイキングマップ『旧三国街道・三国峠を歩こう！』をご覧ください。 ⇒みなかみ町観光協会 TEL：0278-61-0401



<お問い合わせ>

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-66-0888

代表幹事 林 泉

メールアドレス kawafuru0888@gmail.com

(財) 日本自然保護協会

TEL 03-3553-4107

プロジェクト担当 出島 誠一

<http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html>
メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局

赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 藤澤 将志

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html
メールアドレス akaya_postmaster@rinya.maff.go.jp